

会員寄稿

こうよう会北関東地域（埼玉県・群馬県・茨城県・栃木県）合同行事 「太子研修センター見学会とシンポジウム・パネルディスカッション」報告

【日程】 2010年1月23日（土）（宿泊者は翌24日まで）
【会場】 太子研修センター：茨城県久慈郡太子町大字北田気 662
【参加者】 54名（うち宿泊者36名）

埼玉県支部 役員
引頭 芳子



学生たちが試験真最中の折、北関東地域4支部合同の一大イベント「太子研修センター見学会とシンポジウム・パネルディスカッション」が開催されました。

会場は、昨年、元県立女子高校を改装して新設した東京理科大学太子研修センター。ここは自然に恵まれ、テニスコートや体育館、実験室など充実した施設です。現地では大宮発土浦経由の貸し切りバスや、宇都宮からミニバンに相乗りするなどしてやって来た4支部の会員たちが賑やかに集合し、管理人ご夫妻の案内のもと、まずは施設をぐるりと参観。テニスコートに設置された「寄贈 こうよう会」の看板もしっかり確認いたしました。

シンポジウムは、瀬戸祐一・支部長代表の開会挨拶で開幕。その前には、私たちを歓迎するために駆けつけてくれた太子町町長、綿引久男氏からも嬉しいご挨拶を受けました。町長いわく、太子町街づくりのキャッチフレーズは“スローライフをしながらのたそがれライフ”。子育て支援、子育て住宅、医療費・給食費無料対策と、孫世代に推奨の施策解説に加え、極



綿引久男氏（町長）

めつけは「皆さん、太子で今からでも子育てを！」のメッセージ。町長のウィットに一同は、大爆笑の渦でした。

◆前半 シンポジウム：“理科大とのかかわり”

演題①「公的研究機関における学生の研究活動
—産総研でのロボット研究と理科大生の研究内容—

講師：安達 弘典氏（独立行政法人 産業技術総合研究所 知能システム研究部門 フィールドロボティクス研究グループ）

通産省の国立研究所が独立行政法人となり、3,000人くらいの研究員がいる産業技術総合研究所。大学在学技術研修生や連携大学院生が、対人地雷探知ロボットの開発や癒し系ロボット、土木機械の自動運転などを研究している映像を見せていただき、若者たちの未来を担う姿に頼もしさを感じました。



安達 弘典氏

演題②「神楽坂の景色 — 今も変わらぬこと」
講師：佐藤 康子氏（東京理科大学理学部化学科 卒業生
埼玉県総合教育センター科学教育ボランティア）

佐藤さんが学生だった頃の懐かしい飯田橋の駅や外堀通り、神楽坂の町並み、「故障」と書かれた公衆電話、学食の値段、今では意外な卒業式で



佐藤 康子氏



の女子学生の地味なスーツ姿など、数多くの写真を紹介していただきました。「当時と変わらないのは授業料の安さ？ 当時より大変なのは就職活動！」との言葉に、思わず今の学生たちに同情。

演題③「日本と海外の半導体技術者から感じること

ー技術を志す学生さんへ、現場からのアドバイス

講師：藤田 いたる氏（キャノン株式会社 半導体機器事業部 CPE 推進統括室長）

キャノンで半導体露光装置に携わる藤田氏によると、キャノンに入社する理科大出身者は、毎年10名から30名程度。現在、業界はインテル、サムスン、TSMCといったアジア勢をはじめとする海外企業が主流とか。「理科大生へ期待したいことは、ロジカルシンキング、優先順位を大切に、深く広く勉強すること。英語は必須、そしてオープンマインド！」と、学生たちにも聞いてもらいたい内容でした。



藤田 いたる氏

◆後半

パネルディスカッション：“親の未来、子の未来”

【パネルディスカッション】

パネリスト：瀬戸 祐一氏

(新日本無線株式会社 取締役常務執行役員)

伊藤 日出男氏

(独立行政法人 産業技術総合研究所 産学官連携推進部門 産学官連携コーディネータ)

海野 裕喜氏

(東芝メディカルシステムズ株式会社 サービス本部 サービス部 参与)

司会進行：石川 智子氏

(群馬県立みやま養護学校 教諭)

パネリストたちが感じている理科大生のイメージは、「真面目なオタク?」「留年多し」「優秀」…。登壇者の皆さんが、自分たちの就職の動機や経験談などを交え、子



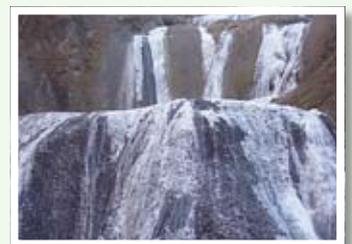
どもたちには自分の人生を自らの力で切り開いてほしいと、熱心に語り合ってくれました。

◆懇親会

夕方からの懇親会では、茨城県支部役員の松浦 勤氏のご尽力で、地域名産の食材を用いた美味しい食事と飲み物がふんだんに用意されておりました。余興の「理科大クイズ」やビンゴでは、豪華な(?)理科大グッズをゲットする人が続出。希望者は近くの美人をつくと有名な「袋田温泉関所の湯」を訪問しました。すっかり元気と美貌を得た後は、再び宴会第二部へ突入。中には深夜まで大学生に成りきって、楽しく(騒がしく?)語り合ったつわものも少なくありませんでした。

◆「袋田の滝」観光

翌朝は、4段の滝で有名な「袋田の滝」観光に出発。所々凍っているのが幻想的で、紅葉の季節はさらに一段と素晴らしいということでした。珍



しい凍みこんにゃくの製造工程も見学。奥久慈地方のお土産も、思う存分、物色できました。

こうして、あっという間の2日間が経過。初対面の人たちばかりなのに、一緒に学生時代に戻ったかのような錯覚を味わえました。個性あふれる講演者の方々は、全員同じ父母ですが、その堂々としたお話しぶり、内容の豊かさは、さすが理科大のご父兄方!! 新鮮な刺激をたくさん受けた研修旅行となりました。